

武庫川水系河川整備計画（原案）等の論点に関する質問書（その 2） 目次

〈第 60 回以降追加分〉

1	奥西委員質問書（平成 22 年 6 月 23 日付）	1
2	奥西委員質問書（平成 22 年 6 月 24 日付）	2

## 質問書：第 62 回流域委員会での県からの回答への再質問ほか

武庫川流域委員会 委員長 松本 誠殿

2010 年 6 月 23 日 委員 奥西一夫

### 1. 中上流部の代表的な地点での通過流量に関して

第 62 回委員会資料 3 の番号 3 で、代表的な地点における目標流量（通過流量：S36 洪水に対する河道分担流量）と現況流下能力について回答して頂きました。そのうち、生瀬大橋と甲武橋（および武田尾？）については、すでに整備計画原案の中で対応が具体的に示されていますが、他の 2 地点について示されていないので、県としてはどのような対策をお考えかをお聞きしたいと思います。第 63 回委員会で文書回答を希望します。

- ・岩鼻橋、武田尾で、満提流量が分かればお教え下さい。
- ・岩鼻橋については、どのような対策が考えられるか、またその対策を行うことにより、一時的にせよ環境二原則に反する結果を生じないとの担保があるか（または現時点までの検討状況）をお教え下さい。
- ・相生橋付近では川底が柔らかい第三紀層ながら、固定床であり、河川横断面が事実上三面張になっていますが、環境二原則に反する状態になっているように見受けられますが、それへの対策はどのように検討されていますか？
- ・武田尾地点では H16 洪水時に土砂流が氾濫し、温泉旅館等に巨礫が流入するという被害が生じました。私はこの時の水位上昇の一因として洪水時の一時的な河床上昇があると見ていますが、県のご見解は？また、堤防が高くて氾濫が起こっていなければ、水位上昇はどれくらいになっていたと推定されますか？これらのことを整備計画の中での河川改修に反映させる必要がないでしょうか？

### 2. 付加的な質問

第 62 回委員会における山仲委員の発言は大変重要だと思いますので、関連質問をします。以前に現状の千苺ダムは法規に定められている超過洪水（計画洪水流量の 2 倍？）に対する安全性が確保できていないため、どっちみち改修が必要であるとの説明が県からあったように記憶しますが、神戸市において（あるいは神戸市と県との協議で）この点をクリアーすることだけを目的とする改修計画が検討されていたら、その概要をお教え下さい。

### 3. 本質問書の取り扱いについて

本質問の内容は第 63 回委員会の審議事項から外れますので、県のご回答は文書配布だけで十分と思われます。口頭説明やそれに関する委員意見は省略し、後日に整備計画の修文について審議する段階で討議材料にしたいと思います。

## 小雨傾向に関する質問書

武庫川流域委員会 委員長 松本 誠殿

2010年6月24日 委員 奥西一夫

下記につき、兵庫県当局に質問致します。

第62回流域委員会で県側より、少雨傾向の説明として青野ダムへの渇水期の流入量について、計画段階（表現不正確）、1/10確率、およびH6年渇水期の数値がパワーポイントで示されましたが、前2者について、どの期間のデータに基づいて出された数値であるか、質問致します。

期間については年または年度程度のくくりで結構です。と言いますのは、降水量などの気候指標には太陽黒点変動周期（最低周期11年）の影響が指摘されており、11年以下のスパンでの変化は議論しても無意味と考えるからです。